

## 【富山県】

現在の景気：持ち直しの動きが続いているものの、そのテンポは緩やかになっている。

3か月程度の見通し：緩やかな持ち直しが続くとみられるものの、円高の長期化や欧州経済の不透明感、電力供給の制約など、下押しリスクが懸念される。

個人消費：一部持ち直し。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比0.4%減少。3月の乗用車販売は前年比75.6%増加。

住宅建築：低水準で推移。2月の住宅着工戸数は前年比3.3%減少。

設備投資：底入れの兆し。日本銀行富山事務所の調査（3月実施）によると、県内企業の設備投資動向は2011年下期が前年同期比4.7%増加、通期が前年度比11.7%減少。2012年度は前年度比30.3%増加する見込み。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比15.0%減少。

公共工事：足許増加したものの、北陸新幹線関連工事が一巡し、低水準で推移。2月の公共工事請負額は前年比53.8%増と2か月連続で増加。

輸出：欧州危機の影響から減少。2月の伏木港通関輸出額は前年比14.2%減と4か月連続で減少。

生産活動：海外経済減速の影響が一部にみられるものの、総じて回復。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比0.5%低下し90.6。金属製品、医薬品が上昇、一般機械、電気機械が低下。原指数は前年比1.2%低下。

観光：低水準で推移。1月の宇奈月温泉の宿泊客数は前年比2.0%減と5か月連続で減少。

雇用情勢：改善の動き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント上昇し0.96。

新規求人数は前年比18.0%増と25か月連続で増加。

### （トピックス）

日本銀行金沢支店の「ほくりくのさくらレポート」によると、北陸の医薬品製造は、全国で最も安価な電気料金、豊富な水資源などの地理的優位性、周辺産業の集積による一貫生産の強み、を活かし独自の製品開発を行うなど、北陸経済の重要産業として期待できると評価。一方、世界最大手のジェネリックメーカーの国内進出による競争激化などで、受託生産への影響も懸念されると指摘。

県内の新車登録・届出台数（二輪車除く）は昨年の震災による生産縮小で大きく下落。その後、供給体制の復旧、エコカー補助金の復活から、ハイブリッド車（HV）や低燃費の軽自動車などの販売が増加。一方、4月からエコカー減税対象の基準が引き上げられるなどのマイナス要因もあり、先行きについてディーラー各社は「楽観視できない」と慎重な見方。

中部経済産業局がまとめた工場立地動向調査（速報値）によると、2011年の県内の立地件数は前年比1件減の13件と記録を開始した1974年以降で最小。13件のうち新設は5件。業種別では鉄鋼業が3件、化学および飲料・たばこ・飼料がそれぞれ2件と続く。震災や円高などの影響から、投資意欲が減退したためとみられる。

< 主要産業の動向 - 富山県 - >

金属製品：1月の生産指数は前年比8.8%上昇し88.6。前月比は8.8%上昇。主力のアルミニウム建材は、震災の復興需要などから住宅向け、ビル向けともに好調に推移。

一般機械：1月の生産指数は前年比18.7%低下し92.3。前月比は2.8%低下。円高や海外経済減速の影響が一部にみられるものの、自動車向けの軸受が高操業。

電気機械：1月の生産指数は前年比22.7%低下し38.8。前月比は5.1%低下。半導体関連、電子機器などはやや増加したものの、海外経済の減速に加え、国内の家電品販売の不振から、低調に推移。

医薬品：1月の生産指数は前年比22.7%上昇し235.2。前月比は4.6%上昇。引続き高水準の生産を維持。在庫指数は前月比13.8%上昇し187.9と引続き高水準。